

平成24年度安曇野市健康づくり推進協議会（第1回） 会議概要

<p>1 審議会名.....平成24年度安曇野市健康づくり推進協議会（第1回）会議</p> <p>2 日 時.....平成24年7月11日 午後1時30分から午後3時15分まで</p> <p>3 会 場.....穂高健康支援センター 問診室</p> <p>4 出席者.....武井委員、伊藤委員、下條委員、中村委員、北澤委員、宮澤委員、 平倉委員、宮島委員、高橋(利)委員、渡辺委員、松田委員、高橋(陽)委員 (欠席：板花委員、田口委員、鈴木委員)</p> <p>5 市側出席者.....飯沼健康福祉部長、太田健康推進課長、奥村課長補佐、高橋係長、塚田係 長、小林国保年金担当係長、久保田保健師、上条保健師、岩原管理栄養士、 笠井歯科衛生士、小林保健師、関主査</p> <p>6 公開・非公開の別.....公開</p> <p>7 傍聴人.....0人 記者.....0人</p> <p>8 会議概要作成年月日.....平成24年7月13日</p>	<p>協 議 事 項 等</p>
<p>1 会議概要</p> <p>1 開会</p> <p>2 委員の委嘱</p> <p>3 健康福祉部長あいさつ</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 安曇野市健康づくり推進協議会要綱について</p> <p>6 会長選出</p> <p>7 会長あいさつ</p> <p>8 協議事項</p> <p>(1) 平成23年度事業報告について</p> <p>(2) 平成24年度保健事業計画について</p> <p>(3) 安曇野市健康づくり計画について</p> <p>(4) その他</p> <p>9 閉 会</p> <p>8 協議概要</p> <p>(1) 平成23年度事業報告について（事務局説明）</p> <p>(委 員) やった成果が載っていないが、評価等があった方がよいのでは。</p> <p>(事務局) 計画策定・目標値設定をして、達成したかどうか評価資料となる。例えば子どもの歯科は、目標値を超えて改善しているが、大人は目標を策定した年より悪くなっているで、大人の問題を何とかしなければならない等の資料がある。平均寿命や健康寿命の一定のルールで測れるもの、医療費の順位も評価資料になる。これについては毎年積み上げたものがあるので、統計を見ながら話し合いをしている。そのために健康づくり計画はとても大きな目標になる。</p> <p>(委 員) 特定健診のHbA1cの5.2以上は80%位引かかるが、5.2は国で決まっているのか。</p> <p>(事務局) この基準については国が一律で決めている。</p> <p>(委 員) 5.2%で引かけられ、クリニックに来られても何もできない。糖尿病予備軍は5.6%以上なので、5.2%から5.6%の方はクリニックでどうすればいいのか。80%の方をどうやって教育すればいいのか、凄い人数になる。本来しっかりと指導し治療しな</p>	

ければいけない人に手が回らなくなってしまい、あまりやる必要のない方に手がかかってしまう感じがするので、5.2%以上を引っかけるのは、特定健診を実施しているところで考えてほしい。

(事務局) ハイリスクの方から指導していくが、健康づくり推進員会等の地区組織で勉強している。ハイリスクの方は個別で指導するが、その他大勢のところは一般的な知識を持っていただくよう取り組んでいる。

(委員) 乳がんの視触診検査が減っている理由は。

(事務局) マンモグラフィ健診が医療機関でできるようになったので、そちらに流れている。マンモグラフィ健診は2年に1度受けるよう国で推奨している。乳房の視触診とマンモグラフィ健診を足し上げれば従来どおりの受診者数になるが視触診の方は減っている状況。マンモグラフィ健診の対象とならない30代の方たちもいるので、マンモグラフィ健診でない方法も市として取り組んでいき、受診者数も増やしていきたい。

(委員) 視触診は毎年でもいいのか。

(事務局) 40歳以上の方はマンモグラフィ健診を2年に1回受けていただきたい。

(委員) マンモグラフィ健診を2年に1回受ければいいということか。

(事務局) 国はそう言っているが、血縁者に乳がんの方がいる等のリスクが高い方はマンモグラフィ健診がない歳でも視触診か超音波健診を受けていただきたい。

(委員) 30歳以上もマンモグラフィ健診を考えているのか。

(事務局) 30歳代の方はマンモグラフィ健診をしても乳腺が発達しているので、うまくレントゲン撮影ができないので、マンモグラフィ健診は40歳以上が対象となっている。

(委員) 糖尿病傾向の方が多くることについて、小中学校やそれ以前の子どもの採血等の検査はしているのか。

(委員) 小学校では5年生が血液検査をしている。

(委員) 中学校では2年生が血液検査をしている。

(委員) 全体を通して傾向等があるか。

(委員) 市全体で学校の統計は出しているが、市には渡していない。

(事務局) この年齢では糖の問題は出てこないと思うが、この年齢から尿酸や脂質の異常値を示す方は結構いると思われる。この方たちが大人になってから問題になるデータがあったと記憶している。

(委員) 小さな頃から学校で食について指導していただけたらいいと思う。

(委員) 学校でも食育を進めているが、やはり家庭の食生活が子どもの健康を作っていると感じている。子どもの教育も大切だが、家庭での食育がすごく大切だと思う。

(委員) この次の会議でわかる範囲で教えていただけたらありがたい。

(委員) 献血の年齢制限はあるか。

(事務局) 65歳未満。一般の方は、総合支所と保健センターで実施する時にお願いしたい。

(2) 平成24年度保健事業計画について (事務局説明)

(委員) 成人保健事業の中で、特定健診の受診率の具体的な数値目標はないのか。

(委員) 具体的な数値はある。本来その受診率にならないと国から補助が出ないので、その受診率までは上げなくてはならない。広報等に掲載されているが、それだけ受診さ

れないのは広報が足りないかもしれないが、住民の方の問題だと思う。その中でどうやって受診率が上がるのかの方法のひとつとしてクリニックを受診されている患者さんのデータを代用して受診率を上げようとしている。

(委員) 医師が特定健診を受けるよう勧めているのか。

(事務局) 特定健康診査等実施計画書をご覧いただきたい。平成24度末までに特定健康診査受診率65%、特定保健指導実施率45%、メタボリックシンドローム改善率10%と国から達成しなさいと市町村国保に義務として求められている。これを達成するために、平成20年度から国民健康保険でも広報、チラシ、ポスター等で周知してきたが、なかなか健診を受けていただけない方がいた。平成23年度には、医師会の先生方の協力を得まして通院されている方の特定健診に関する結果を国保に提出していただき、それを特定健診の受診率としてカウントすることになったので、平成23年度は大きく受診率を伸ばすことができた。現状は36.3%の状況。まだまだ65%まで程遠いので更に受診率を上げるためいろんな取り組みを継続的に行っていききたい。

(委員) 知り合いが、通院中に医師から「ちゃんと健診を受けなさい」と言われたらしい。このように医師から勧めるような取り組みがあるかと思った。定期的に通院していない方は、医師から言っていただくと効果があると思う。

(事務局) 今年度更に通院されている方が通院先で特定健診を受けられるような形を充実させていきたい。

(3) 安曇野市健康づくり計画について (事務局説明)
質疑なし

(4) その他

(事務局) 特定健診の実施計画を作るにあたって、策定委員会をこれから立ち上げる。健康づくり推進協議会から2名推薦していただきたい。